

# ひとみ

発行  
相生市教育委員会  
(人権教育推進室)  
電話 23-7145  
平成30年8月号  
(第38号)

## 8月は「人権文化をすすめる 県民運動」推進強調月間です！！

### 「人権文化」とは・・・

日常の身近な場面において、人権を尊重することが、「当たり前」のこととして、人と人とのかわり合いにおいて自然に表れている様子を言います。人権文化をすすめるために、家庭、地域、職場、学校など日常生活の中で私たちにできる事について考えてみませんか。



### ユニバーサル社会に向けて

以下は、日本の人口を100人に例えた場合のそれぞれの人数を示したものです。多様な方々が生活する現代社会。私たちの周囲には、さまざまな立場の方がいると考えられます。そして、それぞれに異なるニーズがあると言えます。そんな社会だからこそ、誰もが暮らしやすいまちづくりについて一度考えてみませんか。



男性 49人



女性 51人



高齢者(65歳～)  
27人



子ども(~14歳)  
12人



妊婦 1人



障害者 6人



外国人 2人

平成30年4月1日に「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」が兵庫県で施行されました。ここでのユニバーサル社会とは、「誰もが暮らしやすい社会」「誰もが参加できる社会」という意味で用いられています。この条例は、近年国際化や高齢化が進む中、外国人、高齢者、女性、障害のある人などが、社会で自分が望む生活を送れるような環境を整えるべきという考え方を普及させ、誰もが地域社会の一員として支え合い、いきいきと活動できる社会をめざしたものです。



兵庫県では、これまで平成4年に制定した「福祉のまちづくり条例」に基づき施設、道路、公園、鉄道駅舎などについて、誰もが利用しやすいように整備を進めてきました。また、阪神淡路大震災での避難施設の段差や連絡の遅れなどの教訓をまちづくりに生かしてきました。

今後あらゆる人の立場に立って、誰もが住みやすいまちづくりを一層進める必要性があり、ユニバーサル社会づくりを推進しています。



## ユニバーサル社会づくりを進めるにあたっての視点

### 支え合いながらともに生きる考え方の重視

すべての人が、孤立や排除された状態ではなく、社会の一員として迎えられ、支え合いながらともに生きるという考え方を私たち一人一人が共有し、できることから取組を積み重ねていきます。



### 横につながる連帯の重視

ユニバーサル社会づくりに向けて、人々が組織等を超えて横につながり、地域で連帯し、知恵と力を出し合っています。

### ユニバーサルデザインの考え方の活用

ユニバーサルデザインの考え方を、モノやまちなどのハード面だけでなく、人の意識や情報、社会参加の仕組みに取り入れ、具体的に進めていきます。

### 情報通信技術の活用

パソコンやインターネット、携帯電話、スマートフォンなどの情報通信技術を積極的に活用し、情報を容易に伝達したり表現能力を高めたりすることで、お互いの理解を深め、関係づくりを進めます。



# 誰もが住みやすいまちづくりに向けて

右のマークは、何をしめすものでしょうか？

これは手話フォンの設置を示すマークです。

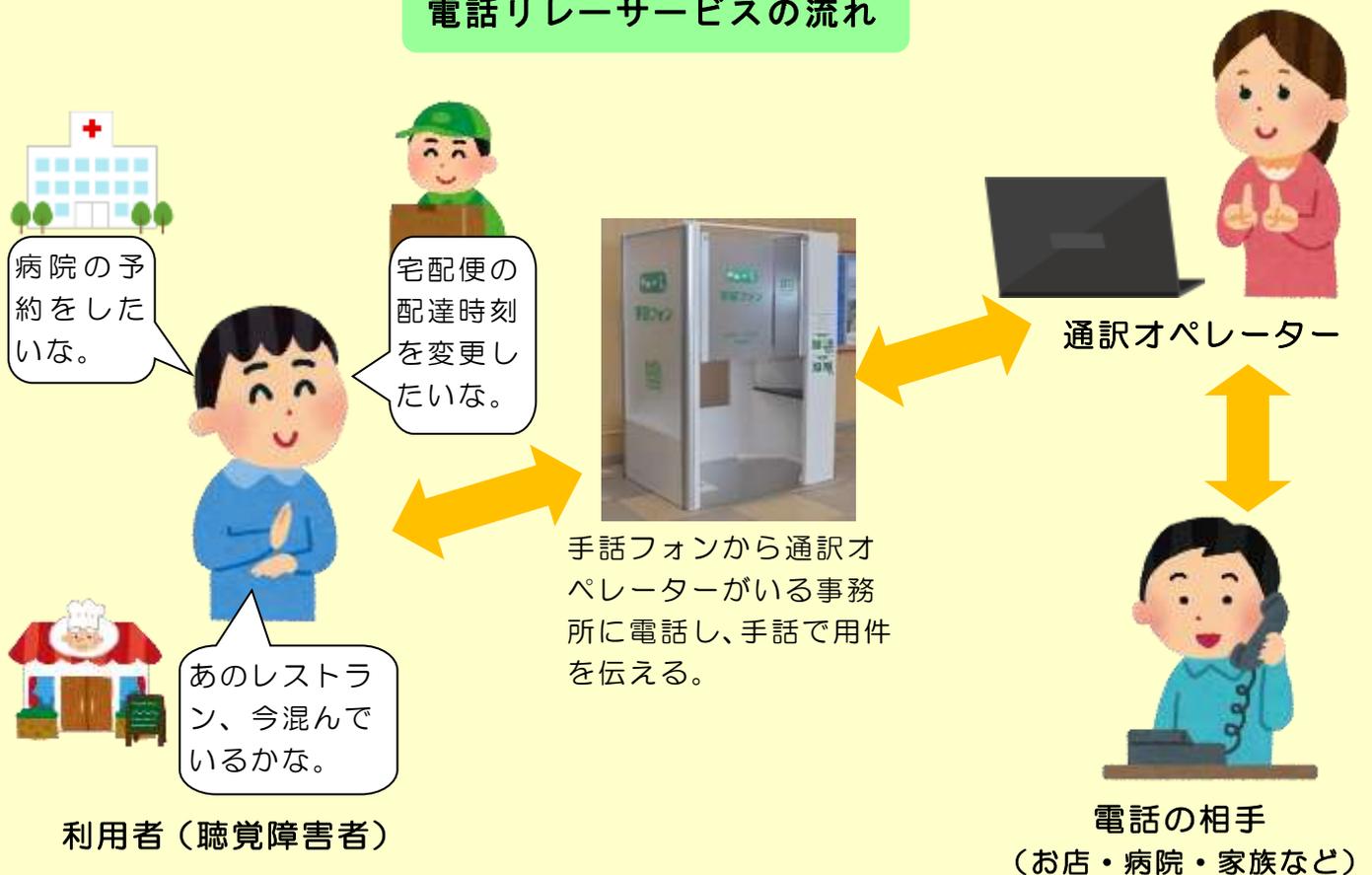
手話フォンは、手話対応型公衆電話ボックスのことで、公益財団法人日本財団が耳の不自由な方向けの電話サービスの一環として提供したものです。

電話ボックス内にモニターが設置され、手話通訳者（オペレーター）が、モニターを通じて伝えられる内容を声と手話でつなぐ、電話リレーサービスです。

「病院やホテルの予約をしたいとき。」「レストランに混み具合を確認したいとき。」「宅配便の配達時刻を変更したいとき。」などのやり取りをスムーズに行うことができます。国内には、羽田空港国内線第1・第2旅客ターミナル、国立大学法人筑波技術大学天久保キャンパス、あかし市民広場（パピオスあかし：兵庫県明石市）に設置されています。



## 電話リレーサービスの流れ



公共施設や道路や交差点の改修や技術の進歩などによりバリアフリー化が町なかで進んでいます。さまざまところでバリアフリー化が進んでも、それを使用するのは人であることを考えると、施設等のバリアフリー化を進めるだけでなく、私たちの心のバリアフリー化を進めることが大切です。



# ヘルプマークを知っていますか

## 何のためのマークか

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲からの援助や配慮を必要としていることを知らせるマークです。

## どのようなものか

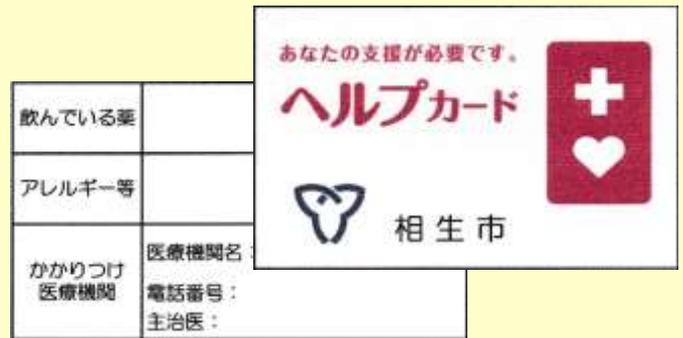
### 【ヘルプマーク】



取り付け例

カバンに装着するなど、身につけることで、周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせるものです。名前、連絡先、必要とされる援助・支援等が書き込むことができるシールを張ることもできます。

### 【ヘルプカード】



配慮等を求めたい場面で掲示し、必要な配慮や援助の内容を相手に知らせることができるものです。名前、連絡先、必要な配慮(アレルギーの内容を伝える。体調急変時に病院への連絡を依頼する。災害時の誘導を依頼する。)などを書き込むことができます。

## 入手方法は

**ヘルプマーク** 兵庫県ヘルプマーク交付申請書を県窓口に直接持参するか、郵送・FAX・メールで申請する。市役所社会福祉課でも申請を受け付けています。

**ヘルプカード** 申請は不要で、市役所窓口(社会福祉課、長寿福祉室、子育て元気課、税務課、徴収対策室、市民課)、相談機関(障害者基幹相談支援センター、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター)で必要な方は自由に受け取れます。ホームページからのダウンロードもできます。

## ヘルプマークを身につけている方を見かけたら・ヘルプカードを提示されたら

### 電車やバスなど公共交通機関では、席をお譲り下さい

外見は健康に見えても疲れやすい方などがいます。

### 駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします

事故などの出来事に対して臨機応変に対応することや歩く・階段を昇降する動作が困難な方がいます。



## マーク等に記載された内容に従って配慮・支援をお願いします

ヘルプマークやヘルプカードに書き込まれている内容を見た方は、その内容に沿った支援をお願いします。



## 災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

視覚障害者や聴覚障害者や肢体不自由者で、身辺の状況把握が難しい方や自力で迅速な避難が困難な方がいます。

兵庫県ホームページ「ユニバーサル社会」参照

一人一人が個人として尊重され、社会的な営みに参加することで生きがいを感じることは、当たり前のことと思われがちですが、年齢、性別、障害の有無、文化の違いなどさまざまな要因によって、すべての人が実感できるまでに至っているとは言えません。

すべての人が個性と能力を存分に発揮して、自分の存在を誇らしく感じることができる社会、誰もが暮らしやすく参加しやすい社会の実現が望まれています。



## 「まちかどじんけん特派員」からのお便り

### 「駅での出来事」

用事があって電車を利用することがありました。相生への帰りの電車の中で、私の隣には、荷物をたくさん持った年配の女性が座っていました。相生駅に着くとその女性も降りてこられました。たくさん荷物を持ったまま階段を上ろうとされていたので、エレベーターのある場所を伝えると、お礼を言われてエレベーターの方へ向かわれました。私がそこから階段の方へ向かおうとした時、制服姿の男の子が女性に近づき、「荷物を持ちましょうか。」と声をかけました。女性はエレベーターに乗るから大丈夫と丁寧に断られましたが、男の子は「持ってるだけで大変でしょ。」と言って、女性の荷物のいくつかを持って、エレベーターにいっしょに乗り込んでいきました。

そのやりとりを見ていて私は、女性がたくさんの荷物を持ったまま階段を上がらずにすむようにエレベーターの場所を伝えたところまでは良かったのですが、男の子のように荷物を持って一緒にエレベーターに乗ることを思いつかず、女性が荷物をたくさん持っている大変さに対して、自分に何ができるかを考え行動された男の子の姿に大変感心させられ、大切な事を教えてもらったように思いました。

市内在住 40代女性より



## 「生きるということ」(最優秀賞)

矢野川中学校 3年 堀ノ内 光夏

1年前の夏、いところが生きれるか生きれないかの状況におかれてしまいました。

私のいとは5人家族で、よく一緒にご飯を食べたり出かけたりしていました。みんなで一緒にいると、とても楽しくて時間が過ぎるのがあっという間でした。当時の私は、みんなで楽しく過ごせることを当たり前だと思っていました。

夏のある日、いところが高熱を出し、急きょ入院することになりました。いとは今までにも何度か高熱を出すことがあったので、入院すると聞いた私は、「大丈夫かなあ。」と心配するだけで、いとこの体の状態についてあまり深く考えていませんでした。その次の日、私はいつも通り学校へ登校しました。お昼前、私は教頭先生に呼び出され、母から『いところが大きい病院へ移ることになった。』という連絡があったと知らされました。父が迎えに来てから、家族全員でいとこのもとへ急ぎました。行く途中、私はいところが助からないかもしれないと聞かされ、つい最近まで一緒に話をしたり遊んだりご飯を食べたりしたあの元気な姿しか頭になかったので、その現実を信じきれませんでした。病院につき、私は数十個の管や機械につながれているいところを見て言葉がでませんでした。

大変な治療を乗り越えた今、いとこの命は助かりました。しかし、重度の障害が残り、いところは寝たきりです。自分の意識や力で体を動かすことができませんが、がんばって生きようとしている姿を見て、私はハッと思うことがありました。

私は今まで、障害という言葉を意識して障害のある方を見ていました。でも、いところはいところ。障害があってもなくても、いとこということに変わりはありません。私は、障害という言葉を意識しすぎていたんだと気づきました。今後、私は障害のある方だから助けるのではなく、困っている人がいれば、それがどんな人でも同じ接し方をして助けたいと思っています。

みんなで楽しく、いつも通り過ごせることはあたり前だと思って  
いたけど、全くあたり前のことではなく、とっても幸せなことだと知  
りました。これから、1日1日を大切に、みんなで支え合いながら  
いろいろな壁を乗り越えていきたいです。

学 校 名	学 年	氏 名	作 品 名
最優秀賞			
若狭野小学校	5年	保手濱 元基	けがから学んだこと
優秀賞			
相生小学校	6年	三徳 愛唯	笑顔あふれる町
双葉小学校	6年	高島 凜星	ぼくが学んだこと
那波中学校	2年	山下 凜	障害者の人へのサポート
双葉中学校	1年	安藤 誠富	ふつうの素晴らしさ

## 「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～

**募集部門**／詩、随想(手記・作文を含む)、小説、創作童話

**応募条件**／兵庫県内に在住、在勤、在学の方

**応募作品**／インターネット上を含む未発表・未投稿の自作  
作品に限ります。

※副賞もありますので詳細については兵庫県  
人権啓発協会HPをご覧ください。

**応募方法**／郵送に限ります。9月10日(月)締め切り  
(当日消印有効)

〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-15

県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係  
☎078-242-5355



### のじぎく文芸賞の題材

- 人の優しさや思いやり、支え合うことのすばらしさが描かれているもの
- 一人ひとりを大切に、心豊かな社会づくりの姿勢が描かれているもの
- 生命や人権の尊さ、大切さが描かれているもの
- 人権課題の解決に向けて、明るい展望をもって描かれているもの

## 大人の人権教室

絵本は、描かれている世界を今の自分に照らし合わせたり、過去の経験と重ね合わせたりいろいろな読み方ができます。絵本を通して自分を再発見したり様々な価値観に触れたりする機会にしてみませんか。

### 「サイモンは、ねこである」

ライオン、チーター、ピューマ、クロヒョウ、トラの大型ネコ科5ひきと出会った子ねこのサイモン。「ぼくたち、似てますね！」サイモンが言うと、5ひきは大笑い！「こんな小さい子ねこが、俺たちと似ているだなんて、そんなことあるわけがない。」といばって言うのですが。でも、よく見てみると……。



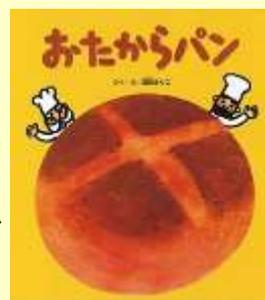
サイモンは、ねこである。

著者 ガリア・バーンスタイン  
出版 あすなる書房

の日から大きな山へ登り、土を袋に詰め、近くの湖に捨て、山を削るという行為を続けます。当初笑っていた他の子ども達も一平と一緒にするようになります。そして笑っていた大人たちも段々と態度が変わっていきます。その行為は何年も何年も続いていきます。

### 「おたからパン」

「おたからパン」というパン屋さんに、どろぼうの男が忍び込みました。しかし、お店の親方にみつかってしまいます。「宝が欲しいならここで働けばいい。」「宝がもらえるんですか？」「おまえの働きしだい。まじめに働けばいつかきっと手に入るだろう。」男はお店で働くことになり、毎日親方とパン作りの修行です。男はお宝を手にすることができるのでしょうか？



著者 真珠 まりこ  
出版 ひさかたチャイルド

### 「イエペはぼうしがだいすき」

茶色い帽子が大好きなイエペの1日を追った写真絵本です。家族や友だちに囲まれて、うれしそうに過ごすイエペの笑顔が印象的です。作品ではイエペの保育園での1日を通して、コペンハーゲンの保育園の様子も紹介します。日本と似ているところもあれば違うところもあります。



イエペはぼうしがだいすき  
右橋 肇

著者 石亀 泰郎  
出版 文化出版局

### 「おじいちゃんの手」

なんでもできて、いろんなことを教えてくれるおじいちゃん。ピアノやトランプや野球。そして、昔おじいちゃんができなかったことを。若い頃、パンの会社に務めていたのにパンの生地をこねることがでなかったおじいちゃん。手を通して描かれた、伝える祖父と受け継ぐ孫の物語です。



著者 マーガレット・H・メイソン  
出版 光村教育図書

### 「半日村」

村のうしろに高い山があって日が半日しかあたらないところから半日村と呼ばれている村がありました。お米もほかの村の半分しか取れません。村に住むこどもの一平は、ある日両親の会話を耳にし、次



著者 斎藤 隆介  
出版 岩崎書店

「サイモンはねこである」「イエペはぼうしがだいすき」「半日村」は相生市立図書館にあります。

